

# 令和7年度 吉川市立吉川中学校 学校評価

- ・自己評価の欄については、以下の基準により教職員が自己評価した結果の平均値です。
- ・関係者評価は、以下の基準により学校運営協議会委員・保護者等が評価した結果の平均値です。

4 高いレベルでできている。(8割以上の達成状況である。)	3 概ね基準に達している。(6割以上8割未満の達成状況である。)
2 基準には達していない。(2割以上6割未満の達成状況である。)	1 ほとんどできていない。(2割未満の達成状況である。)

- ・各項目の内、「児童生徒は・・・」、「学校は・・・」で始まる質問については、児童生徒や学校全般を振り返り総合的に評価しています。

## 評価項目「組織運営」

NO.	質問項目	自己評価	自己評価についての評価の説明及び学校の考え	関係者評価
1	学校は、学校教育目標の実現のため、様々な取り組みに努めている。	3.2	学校教育目標『考える 蓄える 伝える生徒』の具現化に向け、全教職員が参画意識を持ち、一丸となって取り組んでいる。また、職員会議や学年主任会において指導の重点を明確化し、共通理解、共通行動を推進することで組織力の向上につながった。	3.9
2	教職員はPDCAサイクルのもと教科指導や学級経営・校務分掌にあたっている。	3.1	学校評価の結果を検証し、分掌会を核にPDCAサイクルで、教育活動の質を高められるよう活動した。また、学級経営においては、学校全体で共通理解を図り、充実した学級会の実施等計画的に進め、よりよい学習環境づくりに努めている。	3.6
3	学校は事故やトラブルに対してのマニュアルを作成・掲示し、迅速に対応できる体制を整えている。	3.2	年度当初の職員会議において事故やトラブルに対しての対応について危機管理マニュアルをもとに丁寧に確認した。また、職員相互が報告・連絡・相談を実践し、事故やトラブル等に対し迅速かつ組織的に対応することができた。	3.6
4	学校は清掃活動や掲示物等に力を入れるなど、組織的に環境美化に努めている。	2.8	「清掃」は学校の基盤であることを全教職員が共通理解し、毎日10分間の清掃活動に取り組んでいる。また、学年を中心に教室掲示をはじめ、教育活動を可視化する掲示の工夫に努めている。特に学年ホールや職員室前の掲示物が充実できた。	3.0
5	学校は小中の連携を図り、小中一貫教育を推進している。	3.2	探究型合同授業(10月)、小学生の合唱鑑賞会(10月)、小中合同学校保健委員会(11月)、小中一貫推進研究発表会(11月)、特別支援学級小・中交流会(12月)を実施した。小中9年間の学びの連続性と継続性、中1ギャップ解消に努めている。	3.7

## 評価項目「生徒指導・教育相談」

NO.	質問項目	自己評価	自己評価についての評価の説明及び学校の考え	関係者評価
6	教職員はPTA活動や地域の活動に積極的に協力し、地域の人材を活用した学習活動を積極的に行っている。	2.9	PTA美化活動(10月)を実施、150名を超える保護者や生徒が参加した。また、体育祭や合唱祭では受付や誘導等で応援していただく体制が築かれている。吹奏楽部の演奏披露や市民文化祭出品など地域の活動にも積極的に参加している。	3.0
7	学校は、学校の様子や成果を「学校だより」やホームページ等を活用し、積極的に情報提供している。	3.3	学校だよりや学年だよりを定期的に発行し、教育活動や生徒の活躍を紹介している。また、緊急性の高い情報はメール配信システムで即時発信している。日頃の生徒の様子を中心に、学校ホームページは毎日更新し、アクセス数も増えている。	3.6
8	学校は地域の人材を活用するなど、保護者と地域が連携した教育活動を推進している。	3.1	2学年の1日職場体験(9月)において、多くの保護者、地域住民の協力を得て実施することができた。今後、1学年において、地域人材を活用したキャリア教育を予定している。また、部活動では地域から外部指導者を招き、指導の充実を図った。	3.4

## 評価項目「学力」

NO.	質問項目	自己評価	自己評価についての評価の説明及び学校の考え	関係者評価
9	児童生徒は、落ち着いて学習に取り組む、学習内容を理解しようとしている。	3.1	本校の特色のひとつである朝読書では全校生徒が読書活動に親しみ、落ち着いた学校生活のスタートを実践している。また、「時間を守る」「人の話をしっかり聞く」ことを意識的に取りまかせ、授業での集中力を高めることができている。	3.4
10	教職員は学力向上を目指し、PDCAサイクルのもと、児童生徒の実態に基づいた授業改善に努めている。	3.2	埼玉県・全国学力学習状況調査の結果を受け、教職員が一丸となり、危機感をもって学力向上に取り組んでいる。教科会の充実を図り、調査結果から成果と課題を検証することや教職員が相互に授業参観を行うなど組織的に授業改善に努めている。	3.4
11	教職員は一人一台端末を積極的に活用し、ICT活用を推進している。	3.3	どの学年・教科においても効果的な活用ができている。また、市内全校で導入している授業支援システムを積極的に活用し、使用頻度も高い。ただし、学級数の増加により大型TVをはじめ、ICT機器が不足している。今後改善を検討していく。	3.6
12	学校は学習ルールを定めて授業を進めるなど、共通理解のもと指導にあたっている。	3.2	年度当初に、小中連携で取り組む「STUDY10」という学習ルールを全教職員で確認し、それに基づいた授業をどの授業・活動においても実践している。学校の基盤である「授業」における学習規律の確立のため、今後も効果検証し、研修に取り組む。	3.4

評価項目「規律ある態度」

NO.	質問項目	自己評価	自己評価についての評価の説明及び学校の考え	関係者評価
13	児童生徒は、友達や教職員・来校者に進んであいさつをしたり、正しい言葉づかいをしたりすることができる。	2.7	登校時に教職員や生徒会によるあいさつ運動を実践し、学校生活の中で自然にあいさつできることが増えている。また、場に応じた丁寧な言葉遣いを意識して取り組むよう全教職員で共通認識を図る。普段の生活の中で浸透できるよう推進する。	3.0
14	児童生徒は、学習のルールや生活のきまり・時間を守ることができる。	2.9	開校以来取り組んでいるノーチャイム、授業開始2分前着席を徹底している。生活面で改善が必要な際は学級委員会や生活安全委員会を中心に解決に向けて取り組んだ。ネットトラブル等課題に対しては利用のルール、情報モラル等指導していく。	3.3
15	児童生徒はいじめや意地悪な行為をすることなく、お互いの良さや努力を認め合って、学校生活を送っている。	2.9	全学級において、「デジタルシティズンシップ教育」、「SOSの出し方授業」を行った。生徒は、自他のストレスに対する対応を考え、真剣に取り組んでいた。今後もいじめ・トラブルについては未然防止に注力するとともに、早期発見に努めていく。	3.3
16	教職員は自ら手本となるなど、児童生徒に対して規範意識を高める指導を行っている。	3.1	「時を守り、場を清め、礼を正す」を意識し、教職員自らが範を示し、日々の指導に当たっている。生徒の規範意識低下が懸念される現状において、全教職員が同一歩調で指導に取り組み、全教育活動を通して規範意識の向上に努めていく。	3.4

評価項目「健康・体力」

NO.	質問項目	自己評価	自己評価についての評価の説明及び学校の考え	関係者評価
17	児童生徒は、体力向上に向け、体育の授業や部活動または外遊びに意欲的に取り組んでいる。	3.2	保健体育の授業では運動の質と量の向上を図っている。部活動においては各部活動の顧問が熱心に指導し、基礎体力の向上にも努めている。ただし、一生懸命に取り組む反面、怪我をする生徒が増えているため、安全対策、怪我防止に配慮したい。	3.3
18	学校は、児童生徒の健康管理および食育に関する意識を高めようとしている。	3.2	授業を中心に、保健だよりや昼の放送、委員会活動等を通して生徒の健康管理や食育に関する意識を高めている。また、小中合同学校保健委員会等を実施し、保護者や地域との連携を更に推進し、健康管理や食育に関する意識を高めていきたい。	3.4

評価項目「生徒指導・教育相談」

NO.	質問項目	自己評価	自己評価についての評価の説明及び学校の考え	関係者評価
19	学校は、児童生徒の立場に立ち、一人一人の思いや願いを大切に、児童生徒に寄り添った対応をしている。	3.2	心の健康観察アプリ「心音」や「心と体の安全点検」、「Q-Uテスト」等を活用し、生徒一人一人にとって、安心して居がいのある教育環境の実現に向けて全教職員で取り組んでいる。また、校内組織や外部の関係諸機関とも連携・協力する体制を構築し、生徒に寄り添った対応をしている。	3.4
20	学校はいじめや不登校をなくすため、児童生徒への指導の充実を図っている。	3.2	学校いじめ防止基本方針を策定し、「不登校0日目作戦」「あれから1週間作戦」「2分間道徳」「3人目の声掛け」「退勤4チェック」を全教職員で実践している。また、「SOSの受け止め方」やスクールロイヤーによる研修を実施する等、誰一人取り残さないための支援に推進していく。	3.4